2027年度グローバル地域文化学部
グローバル地域文化学の実践
募集要項

「グローバル地域文化学の実践」は、日本国内においてグローバルな課題に主体的に取り組むフィールドワークやプロジェクト型の科目です。本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで、身近なグローバル・イシューについて英語で発信できる力も身に着けることができます。

科　　目	単位数	学　期	担　当　者	募集人数	費　　用
グローバル地域文化学の実践Ⅰ（水俣で厄災の記憶のいまを歩く）	２単位	秋学期	小野　文生 fono@mail.doshisha.ac.jp	約１０名 (最少登録者数：２名)	約６万円
グローバル地域文化学の実践２（関西圏におけるエスニックコミュニティの諸相）	２単位	春学期	二村　太郎 tfutamur@mail.doshisha.ac.jp	約８名 (最少登録者数：4名)	約3万円
グローバル地域文化学の実践３（近代京都の戦争と記憶）	２単位	春学期	小川原 宏幸 hogawara@mail.doshisha.ac.jp	約８名 (最少登録者数：２名)	約２万円
グローバル地域文化学の実践４（教育の多様性と文化的感受性）	２単位	秋学期	坂本　南美 nsakamot@mail.doshisha.ac.jp	約８名 (最少登録者数：3名)	約３万円
グローバル地域文化学の実践 ５（伝統産業と持続可能性）	２単位	春学期	尹 慧瑛 hyoon@mail.doshisha.ac.jp	約８名 (最少登録者数：２名)	約１万円

※費用は今後変更になる可能性があります。

※「グローバル地域文化学の実践」の受講が決定した場合、「質的調査の方法」（春学期・金Ⅰ）を可能な限り履修すること。

★対　　象：　グローバル地域文化学部

★募集説明会：　2026年12月9日（水）16時40分～　ZOOM開催

★募集期間：　2027年1月14日（木）～1月20日（水）

★選　　考：　2027年1月25日（月）～2月5日（金）

★問合せ先：　グローバル地域文化学部事務室（志高館1階）
TEL：075-251-2610
E-mail：ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp

★科目の取扱い

対　　象	グローバル地域文化学部生
単　位　数	2 単位
単位の取扱	本科目の修得単位は選択科目 A 群に算入します。 また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで選択必修科目 B 群（スタディー・アブロード科目群）の単位を修得することができます。
開講年度・学期	グローバル地域文化学の実践 1 ：2027 年度　秋学期 グローバル地域文化学の実践 2 ：2027 年度　春学期 グローバル地域文化学の実践 3 ：2027 年度　春学期 グローバル地域文化学の実践 4 ：2027 年度　秋学期 グローバル地域文化学の実践 5 ：2027 年度　春学期
登　　録	大学にて一括登録を行います（各自での登録手続は不要です）
注意事項	クラス決定後のキャンセルは基本的に認められませんので、十分検討した上で出願してください。 履修中止、および秋学期開始前の登録削除も原則認めません。

★募集説明会

日時：2026 年 12 月 9 日（水）　16時40分～
場所：ZOOM 開催

16:40～16:50	全体説明
16:50～17:30	【各クラスからの説明】　①グローバル地域文化学の実践 1 ②グローバル地域文化学の実践 2 ③グローバル地域文化学の実践 3 ④グローバル地域文化学の実践 4 ⑤グローバル地域文化学の実践 5
17:30～18:00	【Q&A】※希望するすべてのクラスのブレイクアウトルームに参加すること

★個別相談

やむをえず説明会に出席できなかった場合の質問については、各担当者にメールで連絡してください。

★出願受付

■受付期間

2026 年 1 月 14 日（木）～　1 月 20 日（水）
【月～金　9：00～17：00　(11：30～12：30 は除く)】

提　出　書　類	所定の願書
願　書　提　出　先	グローバル地域文化学部事務室（志高館 1 階）
特　記　事　項	各クラス併願が可能です。 締切厳守

★選考試験

■選考試験（面接）

2026 年 1 月 25 日（月）～2 月 5 日（金）

集　合　場　所	各担当者の指示に従ってください
集　合　時　間	各担当者の指示に従ってください
特　記　事　項	選考試験は上記期間内で対面または Zoom で設定し、担当者から連絡します。 指定された日時に受験できない場合は、申請を取り消すことがあります。

★結果発表

■結果発表

2026 年 2 月 17 日（水）　0 時～

発　表　場　所	DUET メッセージ
特　記　事　項	出願者数の状況により第二希望以降のクラスに合格する場合があります。

★科目概要

科目名	**グローバル地域文化学の実践Ⅰ（水俣で厄災の記憶のいまを歩く）**
概要	南九州・不知火海周辺地域で起こった水俣病は、多くのひとにとって四大公害病として「しか」知られておらず、過去のできごとであり、遠い存在であるだろう。とはいえ、人生、家族、友人、地域社会、自然……理不尽にも、こうしたものをすべて台無しにされた受難。その受苦的経験に、どのように寄り添い、それをどのように理解し、またそれをどのように伝えてゆくことができるのか。この問いは、けっして過去のものではない。水俣病を事例として、そこに生きていた／生きているひとたちに出会い、向き合うなかで、厄災の経験と記憶の文化についての考えを深めるとともに、共生社会を構想するための課題を考察する。水俣病は、遠く、また近い。不知火海の美しい自然と人々の暮らしについて学びながら、グローバルと地域の関係性に思いを馳せつつ、〈過去と未来のあいだ〉にある水俣をフィールドワークする。
スケジュール	集中講義形式で実施する。ただし、秋学期金曜３講時に事前授業・事後授業を８回程度予定している。11 月下旬にフィールドワーク（3 泊 4 日）を行う予定である。

科目名	**グローバル地域文化学の実践２（関西圏におけるエスニックコミュニティの諸相）**
概要	文化地理学・社会地理学・人口地理学が交差する人文地理学の系統分野の一つに、エスニック地理学がある。そこでは、横浜中華街の研究やニューヨークのリトルイタリー研究にみられるように、様々なエスニック集団がどこでどのように分布し、どのような空間的特徴を有するかについて研究がなされてきた。 本科目では関西圏（具体的には京都市内を想定中）において次第に認識されつつあるニューカマーのエスニックコミュニティを対象として、それらがどのような経緯で成立し、どのような特徴を持ち、そしてどのような課題や展望を有するかを、現地調査や文献調査をもとに研究する。対象地域は京都市左京区元田中～高野地区や伏見区深草地区を想定しているが、受講者と話し合いながら対象を絞っていく。既に大阪市島之内地区では研究が行われていることから、それらの先行研究を参照しつつ、現地調査を行いながら考察を深めていく。
スケジュール	春学期火曜５講時。ただし、週末に合同で巡検を行うことがある。また、当該時間帯およびその前後を利用して現地調査を行うことがある。

科目名	**グローバル地域文化学の実践３（近代京都の戦争と記憶）**
概要	近代日本は富国強兵のスローガンのもとに徴兵制を敷き、対外戦争を行った。そしてその結果としてアジア各地に対外膨脹していったことはよく知られている。そうした近代日本の戦争の経験は、日本社会のあり方をも規定した。そうしたなかで近代京都には軍事都市の母斑が押されている。たとえば伏見深草地域は「軍都」と呼ばれるように軍事施設が置かれており、また、舞鶴は大陸の表玄関であるとともに重要な軍港であった。本科目では、近代京都の戦争経験について、戦争遺跡の探索などを通じ、どのように戦後に記憶されているのか（あるいはいないのか）を文献調査や現地調査を通じて検討し、考察を深めていく。
スケジュール	春学期火曜１講時。授業時間外でのフィールドワークを実施する（日時は履修者と相談のうえ決定）。

科目名	**グローバル地域文化学の実践４（教育の多様性と文化的感受性）**
概要	世界的に急速なグローバル化が進む中、本授業では教育の視座から地域・文化に着目する。受講者は、グローバルな視点から移民の子どもたちへの教育、地域性の違いを超えた教育実践、文化的背景の異なる児童生徒のクラスコミュニティづくりに関する現状を学ぶ。それらを踏まえて実践的アプローチへの理解を深め、文化的コンピテンスを取り入れた教育活動をデザインし、日本の学校との交流を通して活動を実践する。これらの体験を通して、教育分野における多様性への理解を深め、それをどのように実践モデルに取り入れるかという実践的知見を育む。また、海外の研究者との交流や日本の教育現場での児童・教師との交流を通して、「Leave No One Behind」（UN）に向けたグローバルな教育的視点を養う。
スケジュール	秋学期火曜２講時。１１月下旬に日本の小学校での交流授業実践を行う予定である。

科目名	**グローバル地域文化学の実践５（伝統産業と持続可能性）**
概要	畳めば長方形の平面になる「着物」は、日本の民族衣装であるとともに、「グローバル」と「ローカル」が交差する伝統工芸技術の結晶でもある。本授業では、マテリアルとしての「着物」、フォーマットとしての「着物」、メディアとしての「着物」を考察・体験するために、京都の呉服産業の様々な現場でフィールドワークを行うとともに、伝統産業の持続可能性を模索する。受講者には、強い探究心と積極性を持ってのぞんでもらいたい。
スケジュール	春学期金曜２講時。ただし、学期中に2回程度、授業時間外でのフィールドワークを実施する（日時は履修者と相談のうえ決定）。また、授業から派生したプロジェクトに任意で参加してもらうことがある。